



八月の保育

幼稚園……堀合文子

保育所……鈴木とく

夏休み

夏も本格的になつて来て、夏休みがやつて来ました。夏休みは、子供達が家庭にもどり個人個人が自然に親しんだり、社会に接したりして、普段とちがつた収穫のえられる時です。幼稚園からはどんな事を家庭に希望し、家庭ではどんな事に気をつけて過させたらよいか一つ考えてみましよう。

○幼稚園から

年少児の場合。一学期も無事にすみました。四月入園以来、団体生活もやつと自分達に習慣づけられて来た時ですので、家庭生活によつて比較的規則正しい生活がくずれてしまわないよう、くずれると自然と不規則になり、健康にもよ

ろしくない結果になるのは言うまでもない事です。幼稚園では一日の生活を記録する表を用意し、それを実行しつける事を約束しておきます。その表の項目は、月日、天候、起床時間、就寝の時間、歯みがき、洗面の有無、おひるねの有無、その日の健康状態、お手伝の出来た種類。その日の行動。(例えば出かけたらその場所、その日遊んだ様子)以上で子供達自身でつけられる欄もあるが、年少の時はお母様が子供達と一緒になつて実行し、又夜になつて一日の反省をして記録をつけていただきたい。これは○が多いからよい、×が多いからその子はダメとゆうのではなく、○でも×でもよいから、共にお母様と一日を規則正しく健康に過すために努力すれば、

その事自身が尊いのであるから、ありのまゝの記録でありた
い。

幼稚園ではこの表と共に、長い夏休み、家庭でどんな事を
気をつけたがよいか、話合つて相談し、皆と約束する。年少
では何をするかの要求よりも、健康に元気に過し、九月には倍の元氣で登園出来るように注意していただく事を希望す
る。

年長の場合

○ 表は年少と同じ。年少ではお母様が皆つけたが、年長は自分達でつけられる所は、字なり、記号（例えば暗の時はお日様をかく等）でかかせたい。そして、お母様と協同の表にしたい。それから生活も健康に気をつける事は勿論だが、生活の中にあらわれた製作品はそのまま保存しておいてあげたい。例えばお絵かきをしたら、それをためておくとか、何か製作したり蒐集したら、それを整理して保存しておく如く、子供の力でやつたもので、何も大人が興味もないのに無理にさせたり、子供がはじめたものも大人が手を加えて立派なもの（見た目が）を作り上げたりする必要はありません。これは又、まとめて来たから作つてきたから、えらい、しないからだめ、とゆうのではないのだから、その点よく理解していただき、子供達の生活に助力していただきたい。しなければしないでよいのである。

○ 又夏休みは前に述べたように自然にしたしんだり、社会

を見学する機会に多く接する。その場合、お母様方が子供達の相手になり、共によーくその場合の体験をふかくして、話合ながら共に行動してよく観察しよりふかい有意義な経験をさせたい。

○ 時にはお母様が子供になつて、子供の友達として一緒に遊ぶ一時がほしい。

○ 第一保育期の幼児の経験「こんな事が一期おえたたら出来るようになつていい」と、幼稚園での今までの生活の報告をして、特にヨギ習慣、健康の習慣の所を家庭に、夏休みも歩調をそろえてもらおうようにしたい。

○ 以上のような幼稚園として家庭への希望を夏休み前に、お母様方と話合う機会をもちたい。

家庭では。

幼稚園よりの種々の希望をよく理解し、幼児のために、今度はお母様が夏の間、幼稚園の先生のかわりになるよう、その児兒にあつた適当な指導を、先生とよく話合つてしていくべきだ。幼児は夏のあつさと同時に、あつさにまげず、普段どちがう経験にふれるたびに、そこに創作もうまれ、智識もふえ、はかりしぬ、伸びる芽が首出している。その機会をよくとらえて、個人に適切な指導をし、よりよく伸ばしてほしい。幼児は元氣です。健康ならば、元氣一杯、あつさ等どこへやらです。充分に活動させ経験を豊富にさせてあげて

下さい。重ねて健康はお母様が蔭になつたり日向になりして

・休息

注意し、九月にはぐんと伸びた元気なよき幼児として、幼稚園へおがえしいただきたいと思ひます。

夏季保育

夏休み中、希望の者をあつめて夏季保育をしていられる所を往往みられる。私は夏季保育の経験が全然なく、これについて言う資格は全然ないが自分が夏季保育をするつもりで一週間の計画を立てゝみよう。御参考になれば幸だ。

○第一日

・お話

・音楽 「かみなりさま」歌をならうと共にリズム遊びをして遊ぶ。

・休息 帰る前におひるねとまでゆかなくとも、静かなままで遊ぶ。

○第二日

ヤノやレコードによつて数分間休息してから帰る。

・ふうりんやさんのふうりん作り、

・紙芝居二つ。

○第三日

・お画かき (自由)

・ふうりん作り。

○第七日

・みんなで遊びう。

○第四日

・リズム 「水あそび」水鉄砲で遊んだり、海で泳いだりの自由表現。汽車にのつて海へゆき、泳いだり、お砂遊びしたりして遊び、又汽車にのつて帰つてくる。とゆう簡単な生活を自由表現してリズム遊びをする。

○第五日

・ふうりんやさん。三日位かゝつて種種なふうりんを作つた。金魚のふうりん、風車のふうりん、鈴のふうりん舟のふうりん等。出来ただけのふうりんをつるしてふうりんやさんごっこをする。

○第六日

・お話

・休息

・幻燈。(又は紙芝居) 幻燈は明るい所でもうつる幕がある場合はよしが、部屋を暗くしてやる場合は紙芝居の方がよい。

・音楽 皆で新しい歌を覚えるよりも、皆でかわるがわる歌つたり、二三人で歌つたりして小さな音楽会をする

・休息

今日は夏季保育も終りの日なので皆でたのしく遊びたい。皆と相談して、歌をうたつても、紙芝居でも、田遊びでも、一日おもしろく遊びたい。

皆と相談してきめたが、やはりこちらも計画は少し持つていた方がよい。最後に軽いお八つをいたゞいてお別れしましよう。

以上、計画は平凡な、別にこれとゆう変化もない。しかし

暑い暑い毎日なのだから、計画が幼児に重荷になつてはいけない。暑さをわすれる、楽しい毎にしてあげたい。充分に自分達の活動をさせ、楽しませてやりたい。

年令も別にするほどの人数もないと思うので、その点、年令の差も一応内容にこりよされなければいけない。夏季保育には、在席幼児のみでなくして、近所の幼児をも対象にしてはいかがなものであらうか。経験のない私は色々な点、研究も経験もしていないが、こんな理想を片すみに持つてゐる。

八月の保育所におもうこと

鈴木とく

八月の保育所は、田舎にも、海にも、山にも、逗留しに行けず友母の側にも居られない幼児のみが登園する様になります。出席は減りますが、うだる暑さの中で、幼児も、保母も、夏休みで自由にとびまわる学童達や、母が家に居るので休んでいたれる友達の事を、心ひそかに羨みながら、保育所の中で遊びます。

○八月の経営について思うこと

七月末から八月末にかけて、保育所は、子供の側からも、保母の側からも、考えさせられる事が多いのですが、之が業務の妥だから

年来のしきたりだからと、そのままに過ぎていゝものかしらと毎年思はされます。私立経営の所は、園長の考え方で、保母の過労をふせぐ様な、幼児も幾日間を、母のもとですごせる様な工夫がなされると思いますが、公立の所は、事務系統と一緒に考えられるので、開店休業の形でも、体面を保たなければならないと云つた感じがないでもありません。他の保母に気がねなく、休みながらも、他の人達が忙しくて大変などと考えて、おちおち休んだ気もしない休暇のとり方でなく、働く者に、当然の権利として与えられた賜暇休暇をゆつくり楽しめる様な方法を、お互に考え出したいものだと思ひます。